とよの
令和2年2月
(2020.2)
No.537

人権に関する作文・絵画（小中学生の部）入選作品

すべての町民の基本的人権が尊重され、差別のない明るく住みよい町の実現に向けて、人権に関する標語、絵画、作文を募集しました。その中から、入選作品を随時紹介します。（学年は令和元年度のものです。）

東能勢小学校　4年　南　杏華

吉川小学校　6年　門前　颯馬

〝あの子〟を訪ねての映像を見て

東能勢中学校　2年　藤井　彩未

平和登校日に、この映像を見て、私は自分の持っていた考えが変わりました。今までは、戦争、原爆で亡くなった人たちは、「もっと生きたかっただろうなぁ」と、「生きていれば幸せなのだ」と思っていました。実際そのような人たちもいるのだと思います。でも今回この映像から、生きて、一生懸命生きて、それでも苦しみ続けた人たちのことを知って考えが変わりました。映像から伝わってくる原爆の被害者たちは、生きていても救われているというより「苦しい」「悲しい」という感情の方が大きいように思いました。

映像では、原爆で家族を失って悲しんで生きているのに差別を受け、さらに苦しみ続けている人もいました。

これでは生きているのが幸せなのか、生きた方が不幸なのか、生か死かどちらが救いなのか、だんだんわからなくなってきました。原爆は、爆発した瞬間もたくさんの命を奪い、人の心と体を傷つける、さらに生き残った人たちの当たり前の生活、幸せになれる未来も壊してしまう。そのことを知って、戦争、原爆がとても怖いものなのだと改めて思いました。

私たちは、戦争も原爆の怖さも知識としてしか知りません。実際、体験したわけでも、見たわけでもありません。それは日本が少なくとも自分が生まれてきたとき戦争をしていなかったということです。それはいいことだと思います。でも、それは本当の意味で戦争、原爆の怖さを理解することができていないということでもあると思います。現在、どんどん原爆の被害を実際に知っている人たちは減ってきています。体験者が全員亡くなられてしまうこともそう遠くない未来にやってくるでしょう。そうしたら、だんだん本当の怖さを伝えることはできなくなるのではないかと思います。日本は今、絶対な安全を持っているわけではありません。いつか戦争の怖さを伝える人がいなくなったとき、戦争を始めるときが来るかもしれません。そうならないために伝えられる人がいるうちに、これからの時代を生きる私たちが少しでも多く、戦争がどういう結果をうむのかを理解するべきだと私は思います。

編　集／豊能町役場　総務部秘書政策課　発行／令和2年（2020年）2月1日（毎月1回1日発行）
〒563-0292 大阪府豊能郡豊能町余野414番地の1　☎072-739-0001(代) 3413(直)　FAX 072-739-1980
✉hisho@town.toyono.osaka.jp

町の木／スギ

町の花／タンポポ

町の鳥／ウグイス

町の面積

人の動き	人口	男	女	世帯数
R元.12月末日	19,339人	9,236人	10,103人	8,633世帯
前月比	−44人	−29人	−15人	−17世帯
	転入等	転出等	出生	死亡
人口前月比の内訳	24人	49人	6人	25人